

星座の家族あはせカルタ

かねてから賀川豊彦氏が考案中であつた星座の家族あはせカルタを、此の年頭に拜見して、多少の私見を加へ、改訂したものが下の通りである。近く出版せられ、外國にも輸出される由。

一組みを、父、母、息子、娘、女中の、5枚としたのは面白いが、男女の性の區別をするために實に苦心した。尙ほ、大體は古來最も有名なトレミ148星座を採り入れたが、之れも種々の都合で、遂に南冠と狼と矢とは棄てざるを得なくなつた。其の代り、楯、髪、十字架、鳩の4つは、トレミ1以後の“近代星座”であるけれど、餘り有名なので採り入れ、又、牛座中の“プレヤデス”も東洋西洋共に古來有名なので、假りに一つの獨立星群として採り入れた。どうしても、男女の性別を徹底的に利用することが出來ず、第9組と、第10組とは未熟のまゝにしたことは残念であるが、ひろく讀者諸賢からの御示教を仰ぎたい。星座のリストの完全なものは、“天文年鑑”の舊い號の中にあるから、それを御參考下されば、立派な改案が得られると思ふ。

第1組〔エチオピア族〕

父	セフェウス	Cepheus (男)
母	カシオペヤ	Cassiopeia (女)
息	ペルセウス	Perseus (男)
娘	アンドロメダ	Andromeda (女)
婢	ペガソス	Pegasus (男)

第2組〔初冬星座〕

オリオン	Orion (男)
駟者	Auriga (女)
牛	Taurus (男)
プレヤデス	Pleiades (女群)
エリダン河	Eridanus (男)

第3組〔春の星座〕

父	獅子	Leo (男)
母	ヒドラ	Hydra (女)
息	蟹	Cancer (男)
娘	カッパ	Cratera (女)
婢	船	Argo (男)

第4組〔北天星座〕

龍	Draco (男)
大熊	UrsaMajor (女)
牧夫	Bootes (男)
小熊	UrsaMinor (女)
冠	Corona (女)

第5組〔晩夏星座〕

父	白鳥	Cygnus (男)
母	琴	Lyra (女)
息	ヘルクレス	Hercules (男)

第6組〔晩春星座〕

センタウル	Centaurus (男)
髪	Coma (女)
十字架	Crux (男)

娘	鷲	Aquila (女)	乙	女	Virgo (女)
婢	楯	Scutum (男)	烏		Corvus (男)

第 7 組〔初夏星座〕

父	蛇	遣	ひ	Ophiuchus (男)
母	天	秤		Libra (女)
息	蛇			Serpens (男)
娘	祭	壇		Ara (女)
婢	蝎			Scorpio (男)

第 8 組〔晩冬星座〕

大	犬	Canis Major (男)
小	犬	Canis Minor (男)?
雙	子	Gemini (男)
鳩		Columba (女)
兔		Lepus (男)

第 9 組〔晩秋星座〕

父	羊	Aries (男)
母	魚	Pisces (男)?
息	鯨	Cetus (男)
娘	小 馬	Equus (男)?
婢	三 角	Triangulum (男)

第 10 組〔初秋星座〕

水	瓶	Aquarius (男)
海	豚	Delphinus (男)?
山	羊	Capricornus (男)
射	手	Sagittarius (男)?
南	魚	Piscis Austrinus (男)

但し、婢は、家族内の一使用人に過ぎないので、男女の性別は問題とするに足りないから、此の點、全く考慮外に置いた。

序でに、黃道を往還する七遊星や彗星流星などを以つて一種の雙六（すごろく）のやうな家庭遊戲法を考案するのも、天文普及の一助となつて、面白いものと思ふ。（山本一清）（1938—1—3）

訂 正

一月號口繪「神戸に於ける總會の記念寫眞」の説明に脱落や間違ひがございましたので下に今一度掲載することにいたします。

大	乾	神	萩	久	正	津	井	佐	田	山
口		田	尾	井	木	田	本	伯	村	崎
								(幸)		
		松								
		代								
立	美	梅	田	冬	岡	廣	津	宇	笹	西
田	田	本	中	林	林	野	久	野	部	伊
					坂	元	井			達
										村
										邊
										小
										横
										高
										城
										海
木	佐	長	荏	宮	山	改	稻	公		
村	伯	谷	部	本	本	發	葉	文		
	(信)	川								